

鴨 台 社 事 通 信

事務局：〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨3-20-1 社会福祉学専攻内
TEL 03-3918-7311 (内線 2431) / FAX 03-5394-3057

明日の社会福祉の為に

大正大学社会福祉学会 会長 大谷 壽雄

平成18年度における学会は、学会の事務局を担当する大学当局の提案の議題を、2回の評議員会を開催し次の議題を決定しました。ホームカミングデー(平成18年11月3日)では、大学の学園祭と同時に開催し、90周年イベント企画の検討や、社事通信の発行については、社会福祉学科を卒業した各位に大学からの連携と報告メッセージ等を文書で発送することが決められました。平成18年度の学会は、来る2月11日に関係者の協働によって開催されますので是非ご出席ください。大学で社会福祉を志し学ぶ学生諸君と、私共同窓の先輩の皆さんとがお互いに力を合わせて、明日の社会福祉の為に頑張っているではありませんか。会員の皆さんのご健闘とご健勝、ご多幸を祈念し、巻頭の御挨拶といたします。

第30回 大正大学社会福祉学会のご案内 テーマ「巣鴨地域と近代社会事業の展開」

[日 程] 平成19年2月11日(日)

[会 場] 大正大学巣鴨校舎1号館2階 大会議室

第1部 試写会 午後1時00分～

豊島区西巢鴨3-20-1

第2部 シンポジウム 午後3時30分～

[プログラム]

<第1部>試写会 (整理券をお持ちの方のみ)

12:30～ 試写会受付開始

13:00～13:10 主催者挨拶 大正大学社会福祉学会副会長
NPO 法人でもくらしい理事 石川倒寛

13:10～15:10 「筆子その愛-天使のピアノ-」

主演：常盤貴子、監督：山田火砂子

制作：現代ぶろだくしょん

<第2部>シンポジウム「巣鴨地域と近代社会事業の展開」

15:30～17:20 話題提供 山田火砂子(映画監督)「石井筆子との出会い」

パネラー 土井洋一(元大正大学教授)

北沢清司(元大正大学教授・高崎健康福祉大学教授)

進 行 石川倒寛

17:20～17:25 閉会挨拶 大正大学社会福祉学会副会長 中堀稔雄

17:30～ 学会総会

18:00～ 懇親会

[参加費] ●第1部 映画試写会参加 3,000円 ●第2部 シンポジウム参加 1,000円 ●懇親会 4,000円

[ご注意] ※第1部「筆子その愛」の試写会は、入場整理券をお持ちの方のみご入場頂けます。同封のハガキでお申し込み下さい。

尚、座席数限定(74席)のため先着順となります。試写会は無料ですが、参加費には前売り券購入のご協力が含まれております。

[主 催] 大正大学社会福祉学会/NPO法人でもくらしい

[協 力] 大正大学/庚申塚エリアまちづくりを考える会/株式会社現代ぶろだくしょん

[協 賛] 社会福祉法人豊島区社会福祉協議会(予定)

<出欠連絡と名簿訂正およびアンケート協力のおお願い>

大会への出欠席を同封の返信ハガキにて平成19年1月10日(水)までにお知らせください。試写会会場は、地域との協働のために74席と限りがあり、ハガキで申し込まれた方には、先着順にて別途、整理券をお送りします。昨年と同様に大会をご欠席の場合にも返信ハガキのアンケート欄のご記入及びご住所・勤め先や近況等をお知らせくださいますようお願い申し上げます。ご不明な点は、下記事務局まで御連絡ください。

学会事務局

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨3-20-1 大正大学社会福祉学専攻内

TEL 03-3918-7311 [内線 2431] / FAX 03-5394-3057

事務局長：山田亮裕 学会事務：徳田(※冬期休業 12月23日～1月8日)

社会福祉学専攻教員紹介

詳細は大正大学ホームページ参照 <http://www.tais.ac.jp/>



◆西郷泰之教授 (学部 専攻主任) <児童福祉論・M 児童保健福祉研究>

子ども家庭福祉が専門です。特にエンゼルプランや次世代育成地域行動計画などの市町村の子ども家庭福祉政策や保育所、児童館、子ども家庭支援センターなどの在宅サービスが中心です。



◆新田秀樹教授 (学部 副主任) <社会保障論 M・D 社会福祉政策研究>

「福祉とは個人による『善い生き方』への追求への、援助という形での、他者のかかわりである」と私は考えます。そんな学びのお手伝いが少しでもできればと思っています。



◆宮崎牧子教授 (学部 副主任) <高齢保健福祉論・地域福祉論・M 社会福祉実践分析研究>

大学4年間で専攻の同級生と沢山知り合い、顔と名前をできるだけ多く覚えて卒業して下さることを希望します。大正大学で学んで良かったといえる大学生活を一緒につくって行きましょう。

稿社会福祉学論集バックナンバーのお知らせ

各号 1,000 円にて販売中です

第 12 号 特集「21 世紀に発信する福祉」

I 特集

1. ケアマネジメントは機能しているか…橋本泰子
2. これからの地域における子育て支援…中村敬
3. 大学院における社会福祉教育の試み…石川到覚

II 研究ノート

1. 保育所の地域子育て支援機能に関する研究…鷺見宗信
2. 障害のある人々の生活支援について…浅沼太郎
3. ソーシャルワークにおける生活支援と権利擁護の関係性について…岩崎香
4. 高齢者の自立支援への取り組み…山本かの子
5. 介護体験を人生に意味づけるプロセス研究…松井由美
6. ターミナル・ソーシャルワークの可能性…増井喜代美

III 実践報告

1. 「適当」を継続する…関口梓
2. 子どもの健全育成を担う「子どもの城」…熊澤佳子
3. 精神科病院における PSW の実践課題…鈴木孝典
4. 社会福祉施設介護体験事業について…渡辺法子

第 14 号

I 最終講義

1. ストレngths 視点をめぐる研究回顧と展望…小松源助
2. 保健福祉に思いをよせて…平山宗宏
3. 石井十次の児童養護に学ぶ…吉澤英子

II 研究論文

1. 新宿区における「野宿生活」状況にある人たちの現状…金沢貞子
2. 高齢者の精神的自立を促す援助のあり方に関する研究…石井栄子
3. 車椅子利用者の移動動作能力からの ADL 分析…佐藤亜希子
4. 障害のある人の地域生活支援…和田友絵
5. 高次脳機能障害をめぐる社会福祉的課題…日下尚子
6. スクールソーシャルワークの必要性…井上陽

III 実践報告

1. ホームレス問題とジェンダー文化…中野美恵子
2. 公的扶助制度の運用における課題…今井伸
3. 保健所におけるコミュニティーワークの展開…広井昇
4. 沖縄県糸満市における子育てサークルリーダー研修の
プロセス…吉田真理

第 13 号 野坂勉教授退任記念号

I 特集 野坂先生に贈る言葉

1. イギリス救貧法とディケンズ…塩見知之
2. 野坂先生 65 歳からのテニスとスキー随想…井上文孝
3. 野坂先生、味わいある人生を…福田典雍
4. 野坂先生と共に…望月嵩
5. “野坂勉先生と出会いの場ごとに思う”…吉澤英子
6. 野坂先生のお人柄とご業績…橋本泰子
7. 野坂先生との思い出…中村敬
8. Goodbye, Mr. Nozaka…野田文隆
9. 野坂先生との出会いと一言から…落合崇志
10. 野坂先生との思い出…宮崎牧子
11. 野坂勉先生の社会福祉方法論体系化の先駆的試みに、学び励まされて
…小嶋章吾

II 野坂先生「略歴・業績」

III 専門領域と研究分野の動向

IV 福祉最前線

第 15 号

I 研究論文

- 制度創設時の国民健康保険の保険者…新田秀樹
 介護保険制度改正と低所得者施策のゆくえ…今井伸
 高齢者介護の「地域差」に関する一考察…長倉真寿美
 高齢者介護の専門職が見につけるべき介護技術習得方法に
 関する課題…山本かの子
 養子あっせん…高橋一弘

II 研究ノート

- 介護老人保健施設における家庭復帰支援のあり方…佐々木幸
 地域で生活する精神患者の QOL に関する研究レビューとその
 課題…石田賢哉
 精神障害者地域生活支援サービスにおける専門員のリスクへの
 認識と対応に関する一考察…鈴木孝典

卒業生から

社事通信では今後も卒業生の皆さんのコラムを掲載していきます。ぜひ、皆さんの声をお聞かせください！



◆社会福祉法人 東京蒼生会 第三万寿園

伊藤 光男

昭和52年3月に大正大学を卒業し、東京にある社会福祉法人東京蒼生会にお世話になり今日まで来ています。法人では都内(東村山市・足立区・大田区)で18事業所を運営しています。その中で大正大学の卒業生は、4名働いており、来年度1名の卒業生を常勤職員として迎えることになっています。私は、就職してから約30年高齢者福祉分野で仕事をし、その大半は高齢者入所施設での相談業務でした。現在、東村山市にある軽費老人ホーム第三万寿園の施設長を担っておりますが、施設の運営管理の難しさを実感しております。

今、福祉の現場で何が問題かという様々な制度改正に伴う案件よりも、施設で働く職員の人材不足にどう対応していくかが大きな課題であります。看護職員の人材不足は以前から引きずっていますが、介護職員不足も深刻な課題です。求人広告を出しても応募は皆無、求人フェアを開催しても手応え無し状況です。これからの福祉施設は何処に行ってしまうのでしょうか。分野が違っても現場にいる方は皆、大変危機感を持っています。介護の仕事は、多様化するニーズに答えていくため辛くきつい仕事ですが、利用されているお客様のその人らしい「生」を実現させる支援、そして共に感動を共有していける仕事は他にありません。是非、大正大学の学生さんはもとより転職を考えている方も福祉の現場で汗を流すことを考えてみては如何でしょうか。

◆財団法人 児童育成協会 こどもの城

熊澤 桂子

私の職場は、渋谷にある「こどもの城」という大型児童館だ。「遊び」を提供しながらこどもの健やかな成長を育む使命をおって仕事をする、夢のある職場だ！…と思っている。がしかし、「遊び」を考えることはとても難しく、だからやりがいもあるし、時々悶々ともする。最近、子どもの活動で実際にあった出来事。その1、渋谷近辺でこどもが安全に遊べるマップ作りをする高校生グループのセリフ。近所の冒険遊び場を見学に行き、木の棒でチャンバラをする子どもたちと、真剣に格闘しているプレーリーダーの様子を見て、「ここはこどもにとって危険な場所」と記をつけた！チャンバラが危険な遊びなのだそう。この子達が親になったら、こんな危険な楽しい遊びはさせないのだろう…。その2、主催する小中学生のクラブ活動で、冒険遊び場にいった時のこと。キャンプ大好きな少年が、土風火水を自由に使って遊べるこの遊び場で、「泥団子つき競争に参加しよう！」と誘うと、「やだよ、手が汚れるモン！」これには少しショックを受けた。キャンプという非日常的な空間ではどろんこになれても、近くの遊び場では自然の中で思いっきり遊ぶ気になれないのだろうか。本来「遊び」は他者から強制されるものでなく、こどもの自発的な行為である。だが、施設で提供する遊びは、目的や効果が求められる。専門職として提供する遊びは、楽しく、有意義なものであることは当然で、だからこそ保護者もこどもを連れてきてくれる。しかし、大人が考えたプログラムを子どもたちが楽しんでいる、それをこどもが求めていることに満足しているのか？と感じている。この場所だから「質の高い遊び」が求められる。でも、こども時代にしか体験することのできない遊びのおもしろさ、危なさ、何の生産性も求めない行為を子どもたちに保障する、子どもの遊びにじっくりつきあうことなど、遊び環境を整えることの大切さを痛感しているが、それをどうプログラムにするかは課題だ。真剣にこどもと一緒に遊んでくれる人を一人でも増やし「こどもの遊びを保障する」ことの大切さを啓発する、それが現在の私の「夢」であり、ミッションだと思っている。

◆足立区社会福祉協議会

根本 浩典

現在足立区社会福祉協議会では、「地域福祉活動計画」の策定期間に入っています。足立区は、今まで策定していなかったんですが、今年度から来年度にかけて、策定することになったんです。既に第三次計画を策定している区もあるようですが、まだ第一次計画ということになります。23区で22番目ですが、逆に参考にできるものが多くあるということで、良い計画が作れたらと思っています。

住民参加を重視しようと、策定の委員に公募委員を入れることになったんです。何人応募があるかと、心配だったんですが、いざ締め切りを終えると、予想よりも随分と多い方からの応募がありました。地域住民の方の関心の高さの表れでしょうか、嬉しい悲鳴でした。

地域住民の方の声をできる限り拾えるよう、住民の方が主体となれるよう、来年度は、住民参加の企画も考えています。地域への関心をもってもらうこと、自分たちの問題を話し合うこと、そういった企画を準備中です。地域福祉活動計画を経験された先輩方で、アドバイスがありましたら是非、ご指導お願いいたします。

ホームカミングデー報告

学部専攻副主任 宮崎牧子

今年度、専攻としては初めてのホームカミングデーを銀杏祭期間中の11月3日(金)16時から17時まで開催しました。当日は、40名近くの卒業生が集い、在学生や教職員と和やかなひとときを送ることができました。

今回のホームカミングデー開催にあたり、卒業生へ連絡をしていたところ、「ホームカミングデーとはなんですか?」という質問が返ってきましたので、簡単にご紹介をしておきます。ホームカミングデーのはじまりは、アメリカの大学です。母校に、卒業生を迎えて、在学生と交流する機会をつくる大学祭や学園祭のことを呼んでいます。同窓会やクラス会との違いは、卒業した者と在学中の者が一緒にひとときを過ごすところにあります。まさに私立の学校にとっては、伝統を継承していくことや学校の特色を育てていくうえでは、大変意味のあることで、最近では日本でも多くの大学や高等学校でも、活発に行われるようになってきております。

さて、当日の様子に話を移します。当初は、4箇所の会場を用意したのですが、分散されてしまうため2箇所の会場に集中して行いました。出席者の多くは、卒後5年ぐらいの比較的若い方々が中心でした。社会福祉の現場で働いている者から、一般企業勤めの者や子育て真っ最中の者とバラエティに富んでおりました。一方、在学生は2・3年生を中心に20名程度集まりました。卒業後の進路について、先輩方からアドバイスをいただいたり、職場や仕事の内容を具体的に聞くことができたようでした。また、卒業生は久しぶりに先生方と会い、近況報告をしたり、先輩や同級生との再会に話がはずんでいました。

今回、ホームカミングデーを開催して感じたことは、毎年2月に実施している学内学会とは、2つ大きな違いがありました。まず、ひとつは参加してくださった卒業生の年齢層が若いことでした。2つめは子どもをつれての参加があったことです。若い年齢の卒業生が多かったのは、銀杏祭で自分が関わったクラブやサークルの激励におとずれ、かつ先生や同級生にも会えるという一石二鳥が功を奏したようです。また、子どもを連れてでも参加できることは、女性の卒業生が増えている現状から、卒業生と大学を結ぶうえではとても重要なことであるといえます。

いずれにしても、今回ホームカミングデーを開催して、卒業生と大正大学社会福祉学専攻の絆を保っていくためには、目的ごとに機会をつくる必要があることでした。卒業生の人数が多くなり、年齢層の幅も広がってきたこともあり、学内学会では社会福祉をテーマに研究交流をする機会として、ホームカミングデーは、卒業生と教職員ならびに在学生が懇親を図ることを目的として、今後は検討していこうと思います。

最後に、来年も銀杏祭の期間にホームカミングデーを開催できるよう準備していきますので、多くの卒業生にご出席をいただきたくお願いを申し上げます。また、その機会を活用して、クラス会を催す回生があってもよろしいかと存じます。

なお、ホームカミングデーに関するご意見・ご感想がございましたら、学内学会事務局までお寄せくださいますようお願い申し上げます。

社会福祉学専攻の動向

学部専攻主任 西郷泰之

大正大学創立80周年を迎えた今年度ですが、社会福祉学専攻も様々な取り組みをしています。第1に専門性の高いソーシャルワーカーの育成です。社会福祉士や精神保健福祉士などの資格取得率の向上にも力を入れています。第2に、NCC 福祉コースでの地域貢献できる人材の育成です。第3に、国際的な学術交流です。タイのタマサト大学との交流協定締結準備の中心的な役割を果たし、またイギリスから社会的養護の専門家を招いた講演会を開催しました。第4に、2年後の社会事業研究室開設90周年に向けた卒業生との交流の活性化です。社会福祉学専攻のホームカミングデーを銀杏祭の中で開催しました。そして最後に、卒業生による就職情報の提供です。卒業生を招いての「福祉の仕事」講座の実施など新しい取り組みをはじめています。今後ともご支援賜りますようお願いいたします。

訃報

吉田久一先生が、去る平成17年10月16日に享年90歳でご逝去されました。

小松源助先生が、去る平成18年9月24日に享年78歳でご逝去されました。

会員の皆様にお知らせいたしますとともに、両先生のご冥福をお祈りいたします。